



地方創生の10年と官民で創る、
「起業家の集まるまち、守山」
M O R I Y A M A C I T Y

BIWAKO

自己紹介

守山市 企業連携室 係長

杉本 悠太（すぎもと ゆうた）

1983年生、42歳。

滋賀県湖南市出身・在住。

2005年同志社大学経済学部卒業後、株式会社滋賀銀行へ入行

2014年守山市役所に転職、**2015年より地方創生担当**

地方創生では、第一期に自転車を軸とした観光振興を掲げ、市長特命で自転車担当として観光、まちづくりの取組みを推進。

2020年より、新たな地方創生の柱に「起業家の集まるまち」を掲げ、琵琶湖振興と起業支援、官民連携の三刀流で取組み。

2024年に企業連携室が新設され、現職では官民連携を担当。

（主な受賞歴）

2022年度文科省キャリア教育連携表彰

2023年度スポーツ庁Sport in Life アワード受賞

銀行9年・行政10年
ボランティア公務員



守山市の概要

2025年7月1日 市制施行 55周年

※守山は、比叡“山”の東の鬼門を“守”るまちが由来



人口 86,135人 (2025年12月末時点)
世帯数 35,964世帯 / 65歳以上の割合 22.65%

市制施行

面積 55km² (うち陸地面積 45km²)
市内の高低差 約20mのフラットな地形、災害に強い！

人口情報

JRで京都まで27分、大阪まで57分の好アクセス
※大都市のベッドタウンとして成長

地 形

「のどかな田園都市」を基本に、
「住みやすさ日本一のまち守山」を目指しています。

アクセス

まちづくりの基本理念

神戸市

大阪市

京都市

大津市

草津市

守山市

まとめ

守山市の特長を1分解説！

市政55周年 合併なし

山や坂なし 災害なし

ベッドタウンでアクセス良好
京都30分・大阪1時間

人口増加 若い世代や子どもの多い
コンパクトシティ

守山市の地方創生

01

自転車を軸とした観光振興

事業開始：平成27年から

キーワード：「ビワイチの発着地のまち守山」



02

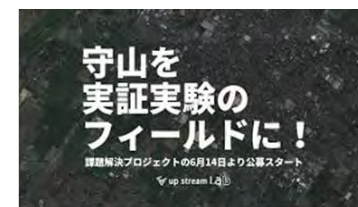
起業・創業の支援

事業開始：令和2年から

キーワード：「起業家の集まるまち守山」の実現

令和6年度以降の大きなテーマ

「守山を実証実験のフィールド！」



民間が主役が基本！滋賀を盛り上げて、**守山の立ち位置と役割**で地方創生！
守山市は**熱意とスピード**で全力で応援、地方を創生！

本市を取り巻く、地方創生5年での環境の変化（成果）

民営起業拠点等の整備（市内5か所）

令和3年4月
コワーキングスペース
「今プラス布団屋の元倉庫店」



布団屋空き倉庫をリノベしたコワーキング

令和5年9月
シェアリングスペース
「MAGNETS 守山」



キッチンスペースを用意したシェアスペース

令和6年10月
オープンイノベーション拠点
「Relic NEXUS LAB」



令和6年7月 滋賀リビングラボ誕生！



大規模産業用地の整備

GSユアサコーポレーションのEV向けリチウムイオン電池工場をはじめ優良企業が立地予定。
総面積40ha以上・R9年度分譲開始予定。

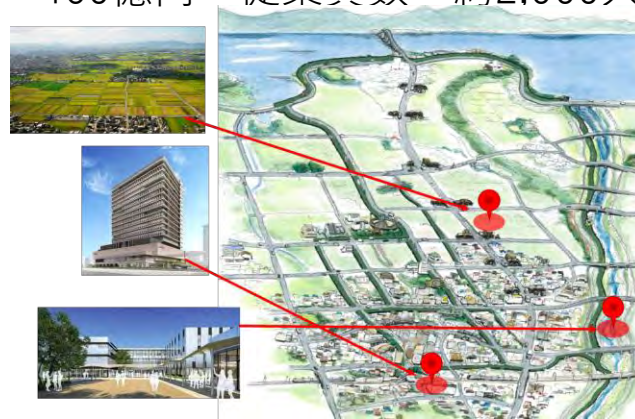
滋賀県では令和10年に県立高専学校整備も！

隣市野洲市内では、滋賀県が高等専門学校整備を計画。産業発展に必要な将来の人材育成にも期待がかかる！

R10年整備に向け取組が進行中

研究開発拠点の誘致

株式会社村田製作所が、既存および新規事業の研究基礎、企画、デザイン、設計の強化を目的とし「**守山イノベーションセンター**」を設立。
所在地：J R 守山駅前東口 竣工：R9年12月
投資総額：460億円 従業員数：約2,000人

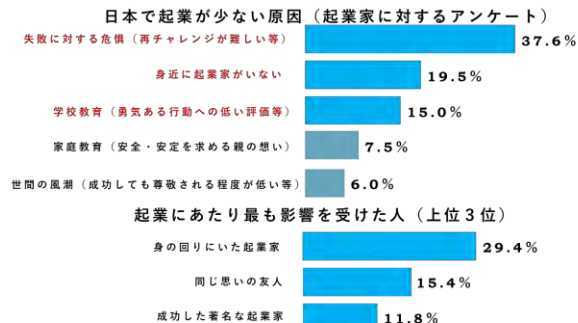


参考：JR守山駅前の様子 (村田製作所イノベーションセンター建築の様子)



2020年当初の守山市の起業支援の取組、の考え方

「起業の環境」



「起業」は環境による効果が大い

⇒ 守山市の機運醸成が必要

「相談先・支援の人」

「起業」の悩みは人・モノ・カネ、
誰にいつ、どんな内容を相談するか
はわからない

（“守山”“市”じゃない、隣町・銀行かも）

⇒ 支援は仕組みでない“面”で



「守山・滋賀の理由」

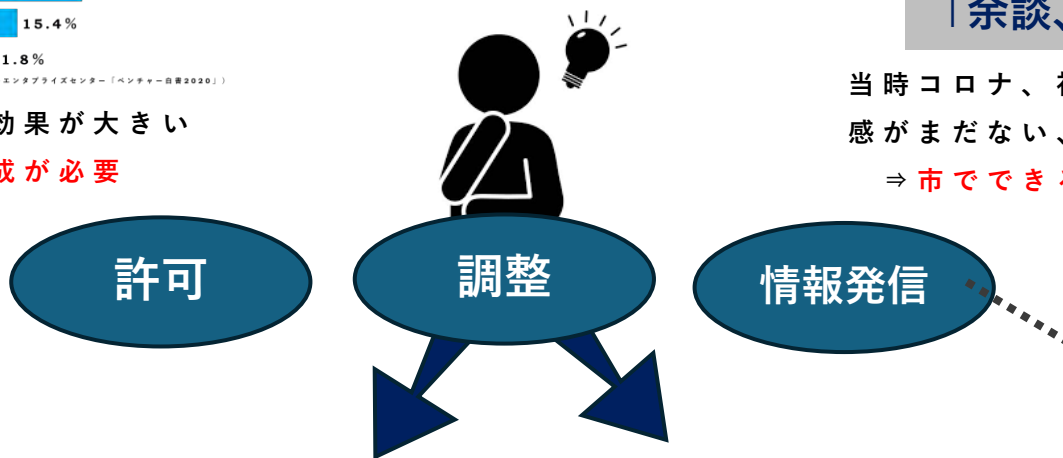
「守山・滋賀」「行政」が良い、もし
くは“そうじゃない方が良い”はある

⇒ 整理をしたうえで、守山・滋賀であ
る理由の認知度を広げる必要！

「余談、リアルな理由」

当時コロナ、社会はスタートアップ
感がまだない、予算ない、担当一人

⇒ 市でできることしかできない



行政がお金以外で出来る
支援で期待される機能

【守山市はこの方向ではない気がする】

NEXT東京、NEXT福岡の大都市型モデルと大イベント

行政主導のプラットフォーム・拠点・制度

市主導の支援体制整備

継続事業

【守山市（地方）はこっちかも！】

関西の“滋賀”、滋賀の“守山”、守山と東京・都市接続

民間主導、官民連携、のための行政の役割

地域を挙げての支援体制（機運）

スピード（タイミング）・成長・変化

守山市から始まる滋賀の起業支援コミュニティ

近江商人プロジェクト up stream

「琵琶湖の鮎は外に出て大きくなる」



滋賀と東京の資本市場をつなぐ

全ての起業家の機会均等

拠点は“守山市”、自治体市域は一旦ない

10年、20年かけてエコシステムを作る

守山市の地方創生－起業家の集まるまちの方針

起業家の集まるまち
ブランディング・PR

イベント・官民連携事業

地域を挙げた支援体制

コワーキング
金融機関・土業
コンサル等の支援側

将来を支える若い世代
育成と起業家教育

小中・高校との連携
大学との関係づくり
※若い世代を支える
大人側の受入環境整備

守山市のスタートアップ・企業連携の取組

「**どうなっている**まちは**起業家の集まるまち**」かを考え、
「**連携実現**」「**機会調整**」「**情報発信**」、**その先**の展開見据えた取組みを進めています。

「起業家・企業交流」＝ up stream プロジェクト



シェアリングエコノミーや他団体との連携



実証実験のサポート制度・補助金



地域イベントと連携した実証実験



守山のナチュラル連携パワー型



さらに、市内小中学校、高校のキャリア教育で！



起業家、企業、産官学の交流の場づくり

交流イベント「up stream Day」

起業家だけでなく、企業、大学、支援機関が交流する機会が滋賀に少ない！

滋賀経済同友会、関西経済連合会、県・国支援機関や省庁も連携して実現！

令和7年度は立命館大学のオープンイノベーション拠点で開催！



官民連携の実現、「守山を実証実験のフィールドに！」

令和6年度官民連携プロジェクトサポート事業を始動！

スタートアップや大企業の新規事業 公募型実証実験サポート制度

今年度は全国から約30者応募→4者を採択
R7.7月～3月までの9ヶ月間の実証実験中
(補助金：上限100万円 補助率：2/3)
※募集開始は4月21日



令和7年度よりOrbit Base Moriyamaを始動！

学生連携版公募型実証実験プロジェクト

初年度は事業者公募により3事業者を選定、その後市内在住・在学中高生を公募し11名が参画し、R7.10月～3月までの6ヶ月間のプロジェクトスタート！



伴走サポートの事例紹介①) 京セラ電子投票による主権者教育



目指す姿)

令和6年度四条畷市で実施され全国で話題になった電子投票の仕組みを主権者教育の一環で、地元高校生と連携し、タブレット投票を体験を実施

学校との調整・現場検証・同行（市内3高校）



全高校での実施実現



さらなる事業伴走

地域での全世代向け電子投票体験



スタートアップ紹介と他地区の横展開検討



伴走サポートの事例紹介②) 水道管の漏水検知システム構築

目指す姿)

衛星データ等でリスクエリアの特定だけでなく、AI音響センサーによる地上検査も併用。「無人・広域・低リスク」の漏水検知・調査の仕組みを目指す

音響AI×衛星データによる次世代漏水検知でスマートインフラ管理



衛星・地理空間データ等の状況から漏水リスクが高いエリアを面把握
漏水特定の聴診技術をAIで再現し音の変化から漏水の兆候を捉える
リスク条件解析
正解データ蓄積

サポート調整

行政内のデータ提供・担当課協議

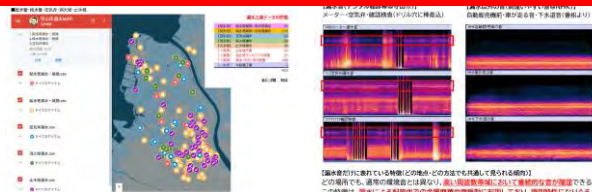


工事業者との調整・現場検証・同行



まとめ

要因マップ化と漏水音取得→データ化



今後の検討：地域・エリアでオープンイノベーションの推進

社会課題の多様化・複雑化の中、行政（市役所）だけでは解決が困難。
→ 湖南4市（守山、草津、栗東、野洲）、エリアで取組を受け入れる体制づくり！



大学
金融機関
滋賀県経済界
国・県



民間組織・団体）
令和6年7月に守山に誕生した
滋賀リビングラボ



今後必要となる要素！

「リスクを許容できる体制づくり」

「挑戦し続ける人、企業を応援する地域の受入体制整備とマインドセット」

「**守山や滋賀である理由**」はみんなで創る！

やり続けると評価・結果も集まる、守山



結果的に**起業家の集ま**っている状態の**まち**を目指す、**守山**